富士見台ミーティング

第6回　**市民まちづくりプロジェクト100活動報告**

【日時】2024年7月11日（木）午後7時00分～ 9時00分

【会場】矢川プラス　多目的ルーム

本日のプログラム

1　開会あいさつ

2　オリエンテーション

3　市民まちづくりプロジェクト100の紹介

・富士見台地域重点まちづくり構想と市民まちづくりプロジェクト100
・新しい参加のツールづくり「クラブサバーブ」の挑戦
・展開していくまちづくりの活動【市民100プロ】

4　意見交換

・市民まちづくりプロジェクト100の今後の可能性を語ろう

5　まとめ・閉会

２オリエンテーション

本日の主旨

●情報共有の場・意見交換の機会に

●市民まちづくりプロジェクト100
「新しい参加のツールづくりへの挑戦」のご紹介

付箋記入のお願い

お手元に、付箋を２枚配布しています。意見交換で使用するため、話を聞きながら記入をお願いします。

これから説明する

「市民まちづくりプロジェクト100」が

●こう広がっていくといいなと思うこと、
さらにできそうなこと（ピンク）

●取り組みを広げていくうえで課題になりそうなこと（黄）

書いていただいた付箋は、休憩時間に貼り出していただきます。

３市民まちづくり
プロジェクト100の紹介

富士見台地域重点まちづくり構想と市民まちづくりプロジェクト100について

富士見台地域
重点まちづくり
構想

国立市には、「人間を大切にする」というまちづくりの理念があり、まちの人たちは、まちに賑わいと活気、そして支え合いを生む人とのつながりを創造してきました。この理念に込めたとおり、国立市の最も重要な資源は、市民をはじめ、国立市で働く人、学ぶ人、訪れる人など国立市にかかわるすべての人間（＝わたしたち）です。

超高齢社会・人口減少社会の到来を迎え、様々な世代や立場の人が抱える生活課題が多様化・複雑化し、さらに財源が縮減していく時代においては、わたしたち個々の努力だけでは持続可能な取組にできません。これまで以上に、まちに対する愛着と誇りをもった市民がより多く存在することがとても重要となります。自分たちのまちが好きで、自分のまちに暮らし続けたいと思えるような、「まちへの愛着」こそが、これからのまちづくりの原動力となるからです。そうした、「まちへの愛着」を持ったまちづくりの担い手（市民一人ひとり）を一人でも多く増やし、手をつないでいくことが未来につながる近道だと考えます。

富士見台地域は、国立市制のきっかけとなった国立富士見台団地があり、公共施設も集積した、魅力的な住環境を有する国立市を象徴する住宅市街地です。しかし、超高齢社会・人口減少社会が進展し、将来の先行きが不透明という不安感にあふれる中、将来に渡って、その暮らしやすさを持続するためには、市民、地域活動団体、行政、事業者等が協働でまちづくりを進めることが重要で、まちづくりのプロセスを通じて、市民を行政が応援し、行政を市民が応援し、市民同士が応援しあえる関係性を参加と対話によって築くことが重要です。それこそが「まちへの愛着」につながるからです。

この度、「国立市富士見台地域重点まちづくり構想（以下「構想」という。）」づくりというまちづくりへの参加と対話プロセスを通して、このまちには、地域固有の財産として「まちづくりのツボ」があることを再確認し、参加者の間で共有もできました。「まちづくりのツボ」とは、たくさんの暮らしを支える魅力的な場所、支え合いを生むコミュニティ活動等です。これらの富士見台地域に存在する「まちづくりのツボ」を、さらに多くのわたしたちで共有し、磨きながら継承していく取組を、国立市のこれからのまちづくりのモデルとして取り組みたいと考えています。

構想では、平成29(2017)年度に策定した「国立市富士見台地域まちづくりビジョン（以下「ビジョン」という。）」の実現に向けて、どのような考え方で、まちの整備や取組を進めていくのかを6つの整備方針で示しています。また、わたしたちが注目する「まちづくりのツボ」に対して、特に重点的・優先的に取り組むプロジェクトを絞り込み、着実にまちづくりを進めていくためのガイドラインを示しました。構想づくりを市民、地域活動団体、行政、事業者等が協働で始めたときから、まちづくりは、もう走っています。

今後は、わたしたち（一人ひとり）が取組の進捗や成果、途中から見えてきた課題などを共有し、各々の状況に応じて対話を続けることで解決策を見出しながら次に進めるプロセスをともに歩みたいと考えます。

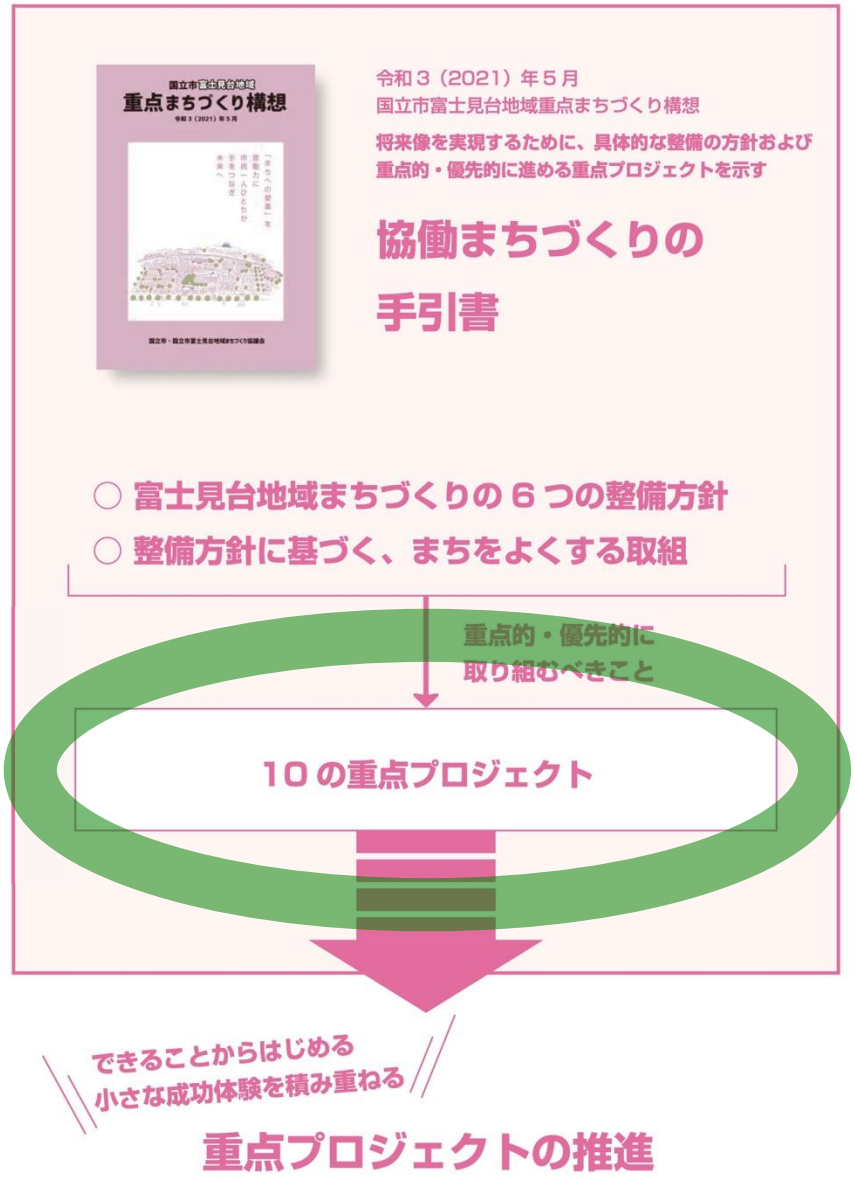
003

（構想P3）

学ぶ人、訪れる人など国立市にかかわるすべての人間（＝わたしたち）です。

超高齢社会・人口減少社会の到来を迎え、様々な世代や立場の人が抱える生活課題が多様化・複雑化し、さらに財源が縮減していく時代においては、わたしたち個々の努力だけでは持続可能な取組にできません。これまで以上に、まちに対する愛着と誇りをもった市民がより多く存在することがとても重要となります。自分たちのまちが好きで、自分のまちに暮らし続けたいと思えるような、「まちへの愛着」こそが、これからのまちづくりの原動力となるからです。そうした、「まちへの愛着」を持ったまちづくりの担い手（市民一人ひとり）を一人でも多く増やし、手をつないでいくことが未来につながる近道だと考えます。

富士見台地域重点まちづくり構想と市民まちづくりプロジェクト100



（構想P7）

富士見台地域重点まちづくり構想と市民まちづくりプロジェクト100

project 01 市民まちづくりプロジェクト 100（通称：市民 100 プロ）

project 02 さくら通りを軸とした富士見台地域の魅力向上プロジェクト

project 03 まちなかの居場所の魅力化・拡充プロジェクト

project 04 グリーンインフラを活用したまちの回廊化プロジェクト

project 05 谷保駅を含めた商業地のにぎわいづくりプロジェクト

project 06 （仮称）矢川プラスを拠点とした国立市の新たなにぎわいづくりプロジェクト

project 07 UR 国立富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクト

project 08 UR 国立富士見台団地をモデルとした住みたくなる、住み続けられる環境整備プロジェクト

project 09 未来に向けた重点エリア検討プロジェクト
（重点エリア：市役所を中心とした公共施設が集積する周辺エリア）

project 10 市民と行政とのまちづくり体制構築プロジェクト

（構想P34）

富士見台地域重点まちづくり構想と市民まちづくりプロジェクト100

重点プロジェクト01

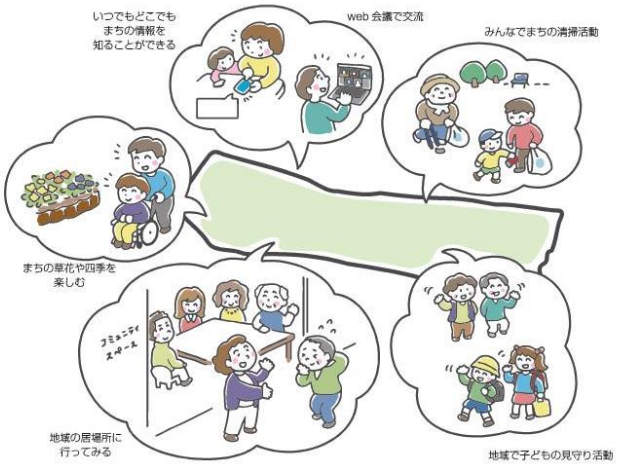
「市民まちづくりプロジェクト100(通称市民100プロ)」

市民まちづくりプロジェクト100（通称市民100プロ）とは

目的：ひととまちとの関わりを増やす

内容：身近な小さな取組みや活動を100個集めよう

将来：その「動き」がまちづくりにつながる



（構想P40）

新しい参加のツールづくり「クラブサバーブ」の挑戦

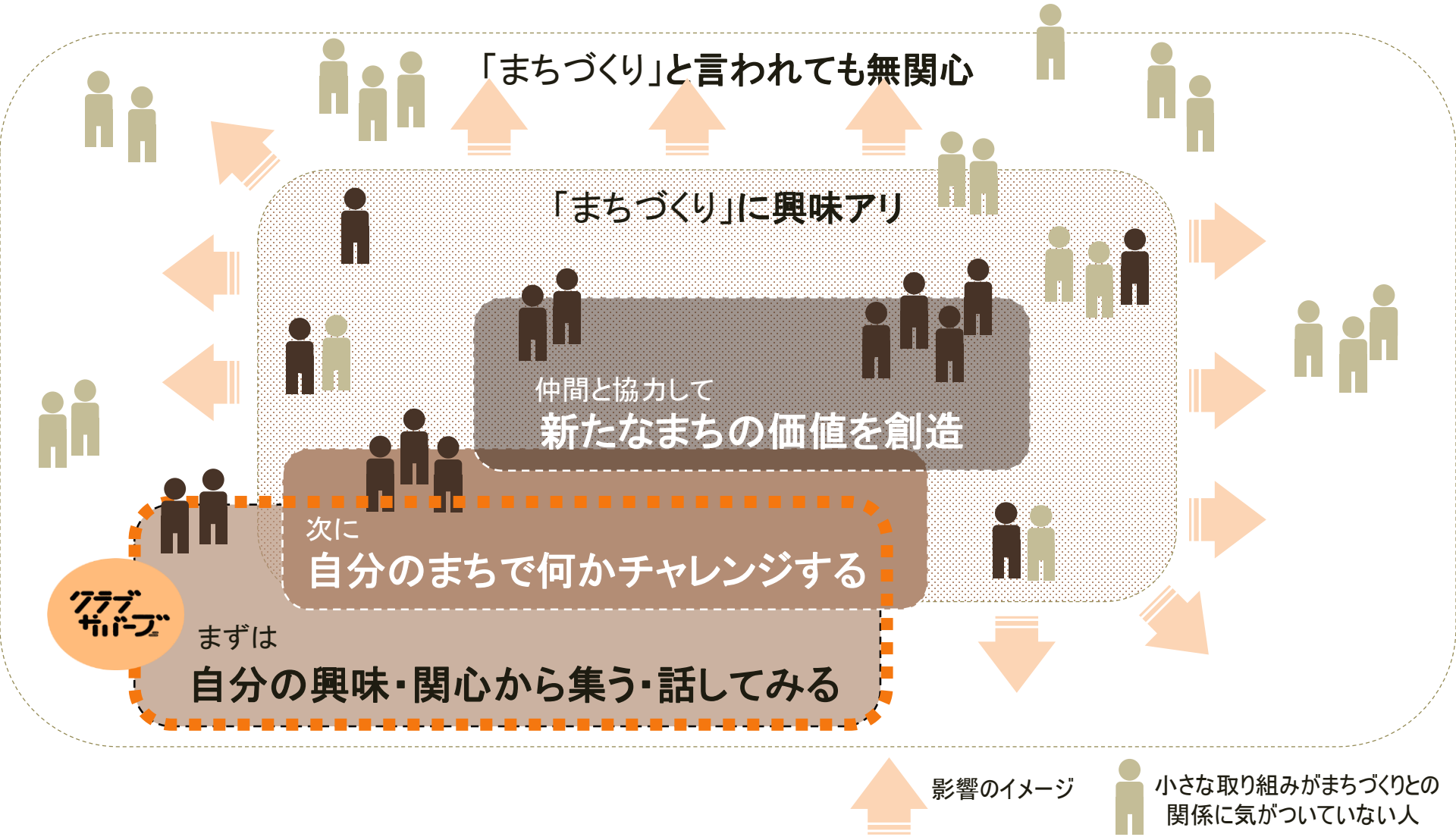
市民100プロのリーディングプロジェクトとして
「クラブサバーブ」に挑戦

目的

【市民100プロ】ひととまちとの関わりを増やす ＞ 【クラブサバーブ】まちに関わる入口づくり

まちに関わりを求める世代が集まって、自分たちでまちを面白くするアイデアを企画し、チャレンジする参加型のまちづくりワークショップ。

新しい参加のツールづくり「クラブサバーブ」の挑戦



効果：【クラブサバーブ】これまでまちづくりに興味がなかった人も関心をもちはじめる

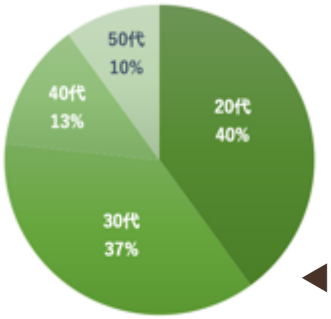
クラブサバーブ2022

テーマ　郊外のアフターワークを楽しむ

東京の郊外、国立富士見台地域が舞台。夜になると都心から郊外に帰って来る、仕事終わりの社会人や学校帰りの学生、小さな子どもを育てる人々が過ごしたくなる「ここにしかない夜」はどんなものか考え、発表する。

参加者　30名

内訳｜20代 12名 / 30代 11名 / 40代 4名 / 50代 3名　計30名



◀参加者の年代割合

プログラム

5 人のメンター（相談役）ごとに企画テーマを設定し、テーマに基づいた企画の検討、発表を行いました。

- **1 日目「まちを知る/アイデアを出す」11/26（土）@国立市役所**

  実際にまちを歩き、リサーチをして企画のアイデアを出しました。

- **2 日目「企画を練る」12/10（土）@国立市役所**

  1 日目に出した企画のアイデアを、より深めて企画を練りました。

- **3 日目「発表する」12/17（土）@旧国立駅舎**

  旧国立駅舎で、公開プレゼンテーションを行い、企画を発表しました。

クラブサバーブ2022のワークショップの様子

クラブサバーブ2022で生まれた企画アイデア①

企画タイトル｜やほんフェス

検討テーマ｜人と本をつなぐ「トーク・ブック・フェス」で３商店街をつなぐ

企画概要

富士見台第一団地のたまご広場を活用し、オープニングイベントを実施、また、商店街を舞台に、本を切り口にして人と人がつながる仕組みとしての期間限定イベントの実施を提案。

企画タイトル｜アソビニ

検討テーマ｜中高生が夜遊びできる場所をつくる

企画概要

中高生をターゲットにした移動式コンビニを提案。公園を活用し、居場所づくりと中高生が夜でも安心して集える場づくりの仕組みを提案。

クラブサバーブ2022で生まれた企画アイデア②

企画タイトル｜yapotify

検討テーマ｜富士見台につながる大学通りをアガるランウェイにするには？

企画概要

大学通りを歩くどおりに聞くことができる試聴コンテンツを提案。
音源は富士見台にまつわるトークや、独自作成した富士見台の地域資源を歌詞にしたラップ等を想定。

企画タイトル｜co-fujidan

検討テーマ｜商店街を楽しむ食べ歩きフードコートをつくる

企画概要

商店街の空き店舗を活用したスタジオ、商店街の空き地を活用したシネマ、商店街の自販機浦のスペースを活用した隠れ家BARの３つのプロジェクトを提案。商店街の既存の空間をうまく使うことで、商店街への来街を促しながら、エリアの魅力を高める取組みを提案。

クラブサバーブ2022で生まれた企画アイデア③

企画タイトル｜さくら通りをCHILLリビングへ

検討テーマ｜さくら通りを歩行者天国にして「ちょっと早く帰りたい」富士見台を演出しよう

企画概要

さくら通りを歩行者天国化するのではなく、歩道部分に椅子などのファニチャーを設置する、プレイスメイキングのプロジェクトからのスタートを想定し、歩行者天国化を目指した段階的な社会実験の取組みプロセスを提案。

クラブサバーブ2023

テーマ　まちのはじまりをカタチにする

国立富士見台を舞台に、仕事終わりの社会人や学校帰りの学生、小さな子どもを育てる人々が自分たちのまちを「自分たちの手で」面白くするアイデアを考えて、そのアイデアのはじめの一歩を「ヤミイチ」という形でチャレンジ出店する。

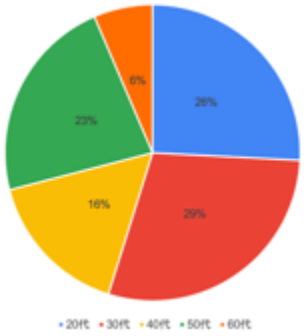
なぜ、ヤミイチ？

「まちのはじまりをカタチにする」は少し抽象的な表現ですが、戦後の日本にはたくさんのまちのはじまりがありました。その象徴とも言える戦後の闇市をモチーフとした、自分たちからはじめる、現代版の「ヤミイチ」という活動を通して、まちのはじまりを考え、チャレンジするための取り組み、という意味を込めています。

参加者　31名

内訳｜20代 8名 / 30代 9名 / 40代 5名 / 50代 7名/ 60代 2名　計31名

参加者の年代割合▶



クラブサバーブ2023

プログラム

クラブサバーブの実施意図や、参加者のまちに関わりたい思いの後押しのため、オープニングセミナーを開催しました。本編では、自分がやりたいことを考え、実現するためのチームをつくり、メンターのアドバイスを受けながら企画を形にして、３日目はヤミイチへの出店にチャレンジました。

- **オープニングセミナー「気づきを得る」9/9（土）@矢川プラスみんなのホール**

  オープニングセミナーでは、まめくらしの青木純さんに来ていただき、ご自身の活動を紹介いただきながら、メンターとのパネルディスカッションを行いました。

- **１日目「仲間をつくる/アイデアを出す」9/27（土）@矢川プラス多目的ルーム**

  １日目は、自分の経歴を書いた「自分年表」を持ち寄って、まちに対してどういう関わり方がしたいのか、できるのか明確にしたうえで、一緒に取り組むチーム作りを行いました。

- **２日目「企画を練る」10/14（土）@矢川プラス多目的ルーム**

  ２日目は、１日目にできたチームで、「ヤミイチ」に出店するための企画づくりを行いました。
  ターゲットや、なぜ富士見台でそれをやるのか？イメージしながら取り組みました。

- **３日目「カタチにする」11/18（土）@矢川プラスみんなのひろば**

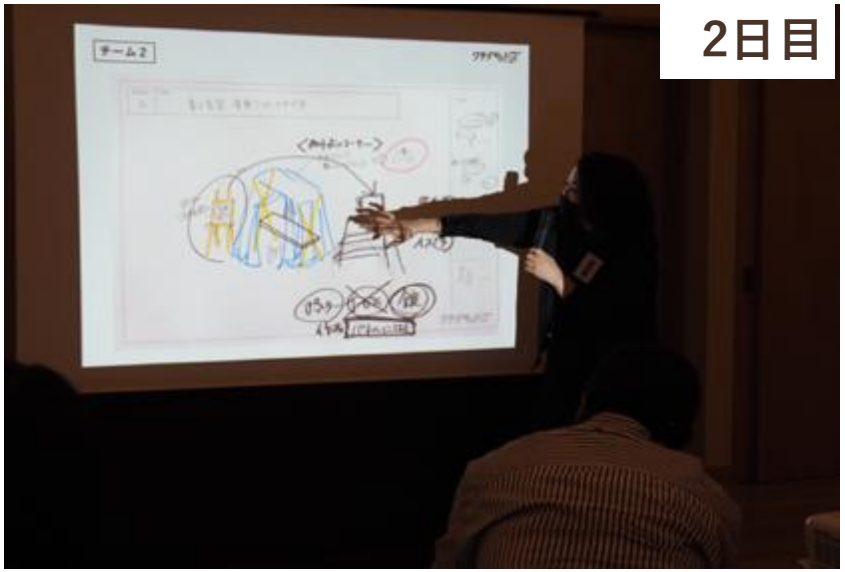
  ３日目は、自分たちの企画を実際に「ヤミイチ」として出店しました。
  5つのグループに分かれた参加者による11の企画が、ヤミイチにチャレンジ出店しました。

クラブサバーブ2023のワークショップの様子①

オープニングセミナー

1日目

2日目



3日目

クラブサバーブ2023のワークショップの様子②

クラブサバーブ2023で開催したヤミイチ当日の様子

「クラブサバーブ　ヤミイチ」でyoutube動画検索！

新しい参加のツールづくり「クラブサバーブ」の挑戦

「クラブサバーブ」今年で3年目

2022年

2023年

？？？

2024年

新しい参加のツールづくり「クラブサバーブ」の挑戦

アンケートの実施目的

クラブサバーブが「**まちに関わる入口**」になっているのかの把握です。また、設問項目は、ウェルビーイング指標※に紐づけており、ウェルビーイングへの有用性も測ります。

プログラム実施意義の評価

クラブサバーブでは、プログラム参加者に対して事後アンケートを実施しました。内容は、プログラム参加後の「**身の周りやまちとの関わりの変化**」や「**心理的な変化**」を主観的に評価していただくものです。

1 「心理的な変化」について教えて下さい。

	設問案	回答
1	楽しいと感じることが増えたと思いますか。	1 2 3 4 5 とてもそう思う 全くそう思わない
2	新しいモノやコトへの興味関心が増えたと思いますか。	1 2 3 4 5 とてもそう思う 全くそう思わない
3	自分の暮らしている地域のことを好きになったと思いますか。	1 2 3 4 5 とてもそう思う 全くそう思わない
4	自分の暮らしている地域で活躍したいと思うようになりましたか。	1 2 3 4 5 とてもそう思う 全くそう思わない

［アンケート設問の例］

※市民の「暮らしやすさ」と「幸福感（Well - Being）」を指標で数値化・可視化し、評価するための軸。今回は主に、地域とのつながりや、自己効力感といった項目に着目し、設問を指標に紐づけした。

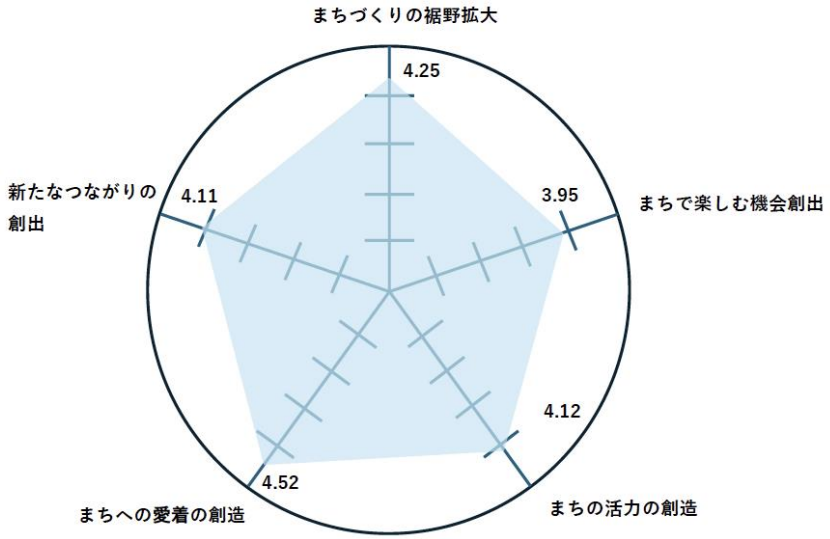
［参考］評価イメージ

まちへの入口になっているかどうか

まとめ　レーダーチャート

アンケート設計上、設定した５つの評価軸に基づいてレーダーチャートを作成した。５件法で設計している設問について、最大５点で合計得点を算出し、回答母数で平均値を求めることで、プログラムの特徴（行政的な実施意義）を明確にすることが目的である。

評価軸	設問	設問数
評価軸１：まちづくりの裾野拡大	6(2) / 6-2(2) / 7(2) / 8(2) /9(2)	5
評価軸2：まちで楽しむ機会創出	3(2) / 3-2(2) / 3-3(2)	3
評価軸3：まちの活力の創造	1-1(1) / 1-2(1) / 4(2) / 5-1(2) / 5-2(2)	5
評価軸4：まちへの愛着の創造	3(1) / 4(1)	2
評価軸5：新たなつながりの創出	1(2) / 2(2)	2



・全体的に高い評価であったが、中でも平均値が一番高かったのは、まちへの愛着の創造であった。
・実施目的として掲げていた、まちづくりの裾野拡大については、平均4.25と高く、行政施策への関心の高まりに対して一定の効果があることが伺えた。
・一番平均が低かったのは、まちで楽しむ機会創出であったが、設問は「まちで知り合いに会う回数が増えたか」であり、今後クラブサバーブ参加者コミュニティが拡大していく中で、また既存の取り組みとの連携や情報共有を図る中で、平均点が高まることが予想される。

［参考］評価イメージ

ウェルビーイング

まとめ	ウェルビーイング評価

本アンケート調査は、地域幸福度（wellbeing）指標も参考に、設問を設定している。主にクラブサバーブの実施目的と関連のある、社会的充実、精神的充実の２つの要素から因子を抽出し、1-1～1-4、2-1～2-6までの設問を関連付けている（関連付けの一覧表は以下）。

設問		関連指標/因子	スコア※
1-1	「楽しい」と感じることが増えたと思いますか。	精神/自分らしい生き方/自己効力感	4.23
1-2	新しいモノやコトへの興味関心が増えたと思いますか。	精神/自分らしい生き方/自己効力感	4.52
1-3	自分の暮らしている地域のことを好きになったと思いますか。	社会/地域の人間関係/地域とのつながり	4.61
1-4	自分の暮らしている地域で活躍したいと思うようになりましたか。	社会/地域の人間関係/多様性と寛容性	4.42
2-1	新しいつながりや、知り合いが増えたと思いますか。	社会/地域の人間関係/地域とのつながり	4.66
2-2	あいさつをする回数が増えたと感じますか。	社会/地域の人間関係/地域とのつながり	3.57
2-3	まちで知り合いに会う回数が増えたと思いますか。	社会/地域の人間関係/地域とのつながり	3.95
2-4	自分の暮らしているまちで過ごす（遊ぶ、働くなど）時間が増えたと思いますか。	社会/地域の人間関係/地域とのつながり	3.61
2-5	新しく活動をスタートした、しようとしていることはありますか。	精神/自分らしい生き方/自己効力感	4.28
2-6	クラブサバーブのことを友人、家族や同僚に話しましたか。	精神/自分らしい生き方/全般	5

※5件法で設定している設問について、前頁と同様、最大5点で評価、平均点を算出したものを表中のスコアとして記載

関連指標ごとにスコアを平均すると、「自分らしい生き方/自己効力感」は4.34、「自分らしい生き方/全般」は5、「地域の人間関係/地域とのつながり」は4.08であり、いずれも4点以上と高い評価であった。「地域の人間関係/地域とのつながり」では、挨拶をする回数が増えたか、まちで知り合いに合う回数が増えたか、暮らしている地域で過ごす時間が増えたか、の設問がいずれも3点代、特に挨拶する回数が増えたかは3.57と最も低かったが、一定数とてもそう思う、そう思うと回答した方がいたことは評価できる。また、新しいものへの興味関心や、新しいつながりについてはいずれも特に高く、クラブサバーブのプログラムの効用は、wellbeingの観点からも有用であることが読み取れる。

新しい参加のツールづくり「クラブサバーブ」の挑戦

クラブサバーブ参加者アンケート評価の結果

・５段階評価の設問において「とてもそう思う」を最大５点として、まちづくりの裾野拡大、まちで楽しむ機会の創出、まちの活力の創造、まちへの愛着の創造、新たなつながりの創出の５つの評価軸について平均点を算出し、いずれも高い点数でした。
・ウェルビーイングについても、関連する指標ごとに平均点を算出し、それについてもいずれも高い点数となりました。

まちへ関わる入口として、またウェルビーイングの観点

でも一定の効果が可視化されました

クラブサバーブのオープニングセミナーご案内

どなたでも参加自由！7/27午後２時~矢川プラスで開催

「クラブサバーブ2024オープニングセミナー」開催

問 国立駅周辺整備課富士見台地域まちづくり担当
sec_fuji@city.kunitachi.lg.jp

自分たちでまちを面白くするアイデアを企画し、チャレンジする参加型まちづくりワークショップ「クラブサバーブ2024（第三期）」の開催に先駆けて、オープニングセミナーを行います。

各地で公共空間の活用や、コミュニティづくりを実験的に仕掛け、まちに小さな変化を起こしている笠置秀紀（かさぎひでのり）氏によるゲスト講演と、クラブサバーブ2024のメンターとのパネルディスカッションを実施します。まちに興味のある方はどなたでも、ご参加ください。お子さん連れも大歓迎です。

日 7月27日㈯午後2時～4時30分（予定）
場 矢川プラス　みんなのホール 定 30名（申込先着順） ¥ 無料
ゲスト 笠置　秀紀氏（ミリメーター）
メンター（相談役）
加藤　健介氏（国立（くにたち）本店・国立人）
加藤　修平氏（こくぶんじカレッジ　講師）
坂根　千里氏（スナック水中）
土屋　一登氏（眞山舎（まやまのいえ））
能作　淳平氏（富士見台トンネル）
吉川　友紀子氏（シュウヘンカ・OCUYUKI）
保育 申込時に相談（当日の保育申込はご遠慮ください）
申 7月５日㈮～19日㈮午後5時（必着）に、①氏名（ふりがな）②連絡先（メール、電話番号等）③保育希望の場合は、その旨・お子さんの年齢と人数を明記のうえ、問までメール、ファクス、電話、郵送、申込フォーム（右の二次元コード）、または窓口にて
※当日参加もできますが、席の都合上、立見となる場合があります。

申込フォーム。▶

クラブサバーブとは？

人とまちとの関わりを増やすことを目的に、国立市富士見台地域重点まちづくり構想に示した「市民まちづくりプロジェクト100」のチャレンジ企画です。なお、令和６年度の参加型まちづくりワークショップ「クラブサバーブ2024（第三期）」の詳細は、市報8月5日号に掲載予定です。

◀笠置氏（左から３番目）の活動事例①。

笠置氏の活動事例②。▶

休憩

記入いただいた付箋を
貼り出しておいてください。

4　意見交換

テーマ

市民まちづくりプロジェクト100の
今後の可能性を語ろう

意見交換

テーマ

市民まちづくりプロジェクト100の今後の可能性を語ろう

今日の話を踏まえて、市民まちづくりプロジェクト100の可能性について、意見交換します。記入いただいた付箋から、話を深めていきます。

可能性

- こう広がっていくといいな
- さらにできそうなこと
- 取り組みを広げていくうえで課題になりそうなこと

5　まとめ・閉会

お願い

アンケートにご協力ください

以下のいずれかで回答をお願いします

- **Googleフォームへのご記入**

  https://forms.gle/R6cv2izT9g1Zd4LW9

  QRコード

- **紙アンケートへの記入**

  ご希望の方は挙手にてお知らせください。